

第34回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2025年10月1日(水) 14時00分～16時30分
- 開催場所 島根原子力発電所 管理事務所1号館5階集会室
- 出席者 〔社外委員〕小椋委員、亀城委員、児玉委員、高尾委員、服部委員
※梅林委員、山浦委員はご欠席
〔社内委員〕北野副社長、三村常務
〔幹事〕岩崎原子力安全監理部門長

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(岩崎幹事)

- ・ 島根原子力発電所2号機につきましては、本年1月に13年ぶりの営業運転を再開し、安定運転を継続しております。これもひとえに関係する多くの皆さまのお陰と心より御礼申し上げます。また、3号機の審査対応や安全対策工事、そして1号機の廃止措置にも鋭意取り組んでいるところでございます。
- ・ 本年は第1回有識者会議を開催してから15年、節目の年となりますが、「地域・社会のみなさまからの信頼があってこそその原子力発電所」という意識の定着を目標にまいりました。今後も「社員一人ひとりが、それぞれの職場において日々誠実に業務に取り組み、全社一丸となって原子力安全を追求することが信頼につながる」ということを、いま一度心に刻み協力会社と一体となって取り組んでまいります。
- ・ 本日は忌憚のないご意見・ご提言をいただき、今後の原子力発電所、原子力安全監理部門の取り組みに反映し、原子力安全文化育成・維持の一層の強化に努めてまいりたいと考えております。

2. 議事

(1)原子力安全文化育成・維持活動の実施状況、原子力安全文化の状態の監視・評価活動の実施状況 他

資料にもとづき、平田電源事業本部部長、松本原子力安全監理部門部長から説明し、質疑を行った。
主な意見は以下のとおり。

【共通の意見・提言】

(安全文化の継続と部門連携)

- ・ 15年間にわたり安全文化醸成に取り組んでおり、また、原子力安全監理部門を設置するなど進化しているが、安全を確保するには、一人ひとりのミスを防ぐことが大切である。一人ひとりの弱い部分にも注意を払いながら、引き続き目配りを行い、取り組んでいただきたい。
- ・ ヒューマンエラーは避けられないため、リカバーが重要となる。原子力分野が安全文化に敏感なのは、対応を誤ると重大な事態につながる可能性が高いためである。組織体制を整え、一人ひとりがしっかりと意識を持つことが求められる。現在の取り組みは評価できるので、今後も原子力安全監理部門と発電所、本社原子力部門が連携して取り組んでいただきたい。

（暗黙知の可視化と評価の取り組み）

- ・ 暗黙知—いわば氷山の一番底の部分—は、安全文化を築く上で欠かせないものである。これについては、蓄積された豊富なデータを活用して作業員の行動に暗黙知を与える、例えば、作業前に注意喚起を行う、形式的な情報を可視化して示すなど、現場に働きかけるということが必要だと思う。
- ・ 暗黙知、暗黙の行動規範がどれだけ出てくるかによって、島根原子力発電所において安全文化がどれほど醸成されているかが分かる。難しいこととは思いますが、これを可視化する方法を考えていただきたい。例えば、いい意味での「融通の利かなさ」や「リーダーシップ」が指標となる可能性がある。どこまでいけば満点か、というのは無いので、経年変化を見ていくことになると思うが、指標を設定し一定期間それを追跡しながら、安全文化の醸成度を評価することが、社内においても安全文化の状態を理解する術になるものと思う。

【安全文化の育成・維持活動に関する意見・提言】

（eラーニング活用と反復教育）

- ・ リーダーシップ研修でeラーニングを活用しているということだったが、eラーニングを入口とすることは、大変有効だと思う。eラーニングは自分の都合の良い時間にできるため、予備知識の習得にとっても適している。eラーニング終了後には次のステップに進んで、技術継承のリーダーシップについても先に進めてもらいたい。PDCAのサイクルがきちんとできており、それを何度も回して底上げすることが、重要と思う。

（風通しのよいコミュニケーション）

- ・ 9月25日に開催された発電所社員、協力会社の交流バーベキュー大会に地元住民として参加したが、毎回感心させられる。協力会社や電力の方々がとても良い表情をされており、和気あいあいとした、まるでファミリーのような雰囲気だった。このような日常的なコミュニケーションは、ぜひ大切にしてほしいと思う。風通しがよく、何でも話せる雰囲気が安全文化の向上にも貢献すると感じた。

【監視・評価活動に関する意見・提言】

（客観的な観察と指導）

- ・ 大切なのは安全意識を常に高く保つことであり、特に注意すべきは、人の介在する作業である。この点で、原子力安全監理部門の設置は大きな意義がある。人のふるまいを客観的かつ公平に観察し、現場では気づきにくい点について注意を促すことが大切である。

（生成AI活用の留意点）

- ・ データを分析する際、生成AIを活用することもあると思うが、生成AIに頼りすぎると人の能力が弱まって、重要な情報を見逃す可能性があるため注意が必要である。

(納得感を高めるための工夫)

- ・ アンケートで「理解しましたか」「納得しましたか」と尋ねると、理解度と納得感が正の相関を持つのは当然であり、理解度を数値やアンケート以外の別の指標で調査した上で、納得感との関連性を探る工夫が求められる。一人ひとりがどのように考えているかを捉えるのは難しいことだがアンケートのみに依存するとミスリーディングする可能性があるため、客観的なエビデンスを用いて議論を行うことで、より理解度・納得感を捉えることができると思う。

(リーダーのふるまいの観察)

- ・ 前回の監視評価活動の結果では、リーダーシップに関する指摘があった。リーダーは自身の考えと周囲の受け止めにギャップが生じることがあり、これを明らかにするために、職場でのリーダーの行動や会議を観察することを検討してみてもどうか。また、若手社員の意識は変化しており、彼ら特有の意思決定の特徴が見られるため、この点にも着目して若手社員にとって魅力的で誇りを持てる職場づくりを推進してもらいたい。

【その他のご意見】

(安全文化の取り組み情報の発信)

- ・ 「原子力安全文化」という言葉が地域社会にも浸透してきており、従来の安全対策と安全文化の活動を整理して公にすることが求められていると思う。地域住民のみなさまに安全文化の活動の価値を理解していただくために、情報をしっかりと整理し発信していく必要があるのではないか。
- ・ 地元で安全文化の取り組みについて話す機会があり、原子力安全監理部門の組織や安全文化の取り組みを地元の方々に伝えたが、その活動はあまり知られていない様子だった。活動を紹介すると、多くの方から好意的な反応が返ってきたので、地元の方々への安全文化の活動の説明にも力を入れてほしい。
- ・ 原子力安全監査部門が自らミッション、ビジョン、バリューを明確にしたことにより、自分たちの目標を明確にしたことは非常に素晴らしいと思う。一方、この活動が地元にはわかっていただいているのかどうか、理解されているかが不透明ではないか。社内向けにこのようなミッション、ビジョン、バリューを定めているということは理解するが、もう少し外向けの視点を持つことも大切だと思う。せっかくの取り組みが地元には理解されないのは非常に残念なので、この点について検討してほしい。

(不適合情報の会議への提供)

- ・ 重大事故を防ぐには、日常の不適合やヒヤリハットを把握し、減らしていくことが効果的である。このような不適合の情報は非常に重要であり、原子力安全文化有識者会議の場でこうした情報を示すことも重要だと思う。
- ・ 以前の原子力安全文化有識者会議の資料には、不適合事象に関する情報が含まれていた。リスクリテラシー(リスク情報を正しく理解し、適切に判断・行動できる能力)の観点からも、原子力発電所の不適合情報の公開は重要なので、ぜひ情報提供を再開してほしい。

- ・ 原子力安全文化有識者会議で安全文化について議論する際には、発電所での実際の不適合事象を把握しておくことが有効であるため、これらの情報を参考資料として提供することを要望する。

(安全意識の継続的向上)

- ・ 現場パトロールは、慣れた人が注意しながらやっていると思うが、他の部門や経験の少ない者も参加することで、安全活動の活性化に繋がるため、積極的な取り組みを期待したい。
- ・ 原子力発電所の入域管理において、厳格な運用を貫いている点に感心した。一つのことを曖昧に済ませてしまうと、やがて他のことにも波及してしまう。このような姿勢を、今後も大切にしてほしいと思う。

(2)情報提供:島根原子力発電所の状況他について

資料にもとづき、谷浦電源事業本部部長から情報提供を行った。

3. 閉会あいさつ(岩崎幹事)

- ・ 本日は、さまざまなご意見、ご提言をいただきまして、ありがとうございました。
- ・ 原子力安全文化の取り組みについて、以下のようなご意見をいただきました。
 - 「原子力安全監理部門が、豊富なデータを活用し、氷山の一番底の部分に目を配りながら、安全文化の向上に努めることが重要ではないか」
 - 「この15年で『安全文化』という言葉は世の中に広く知られるようになったが、これが正しく理解されているか、正しい理解を浸透させる活動が重要ではないか」
 - 「一人ひとりのミスを防ぐことが大切であり、一人ひとりの弱い部分にも注意を払うことが重要ではないか」
 - 「教育の入口としてのeラーニングの価値、そして教育は繰り返し行うことが重要であり、PDCA を回して底上げすることが重要である」
- ・ また、「安全文化のレベルの把握と可視化」についてもご意見をいただきました。この“可視化”の取り組みは、私たちにとっても課題であり、本日いただいたご提案を参考にしながら、さらに検討を進めてまいります。
- ・ さらに、「リーダーが周囲からどのように受け止められているかを知るために、職場におけるリーダーのふるまいを観察してみてもどうか」とのご意見もございました。
- ・ 本日いただいた多くのご意見・ご提言を踏まえ、当社および協力会社が一体となって、原子力安全文化の育成・維持に向けた活動に、より確実に取り組んでまいります。また、これらの取り組みの状況については、分かりやすく整理し、地域の皆さまへお伝えしていきたいと考えております。引き続きのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上